

No. 429
2024.1
JANUARY

通信

東社協保育部会

とうしゃきょうほいくぶかい・つうしん



★ TITLE ★

「ひまわり組どうぶつえん」
杉並区立松庵保育園(杉並区) 5歳児の作品

特集

子どもの過ごす空間を考える

株式会社日比野設計 3

- 地区だより「自然との触れ合い」
多摩市立多摩保育園(多摩市) 8
- 社会福祉法人砂原母の会 そあ季の花保育園(練馬区) 10
- お知らせ 12
- 編集雑感 12

令和5年度 東社協保育部会広報委員会 座談会

子どもの過ごす 空間を考える

株式会社日比野設計

代表取締役会長 日比野 拓 氏



好奇心をそそる空間を

我々の建築設計事務所は、特に保育園、幼稚園、認定こども園や子どものミュージアム、さらには小中学校なんかを設計しているような会社です。私は父も建築をやっていたので、少し変わった家に住んでいました。家の中にはスイングのように開く扉があって、3歳の私はそれを遊具としてよく遊んでいたんですね。兄に揺すってもらってよく扉を壊しました。壊しては直してというのを父はやっていたのですが、これが楽しかったというのが私の記憶です。他には、段差一つとつても腰を掛けて友達や兄弟と話したことや、そこから飛び降りた時の記憶まであります。それから、ソファの下にもよく潜り込んで遊びましたが、底面に貼ってあったメーカーのステッカーまでいまだに覚えています。

小さい時の記憶や空間体験が後々大きな影響を及ぼしていくというところから、子どもの成長に設計が非常に強くかわってくるという認識が強くなり、設計には根柢をつけて考えるようになりました。子ども達が現状抱えている問題は色々あると思いますが、東

北大学と仙台市の教育委員会がよく読書をする子ども達は学力が高いという発表をしています。1日に1時間から2時間くらい読書する子どもたちの成績が一番高いですね。そういう意味で、私たちは本を読む空間を作るということを大切にしています。本を置く棚という一般的なにはきれいに縦に並べてしまおうと思いますが、それで良いのですが、私たちは子どもたちが手にとりやすいことを考え、本の表紙が見えるようにして並べます。同時に、大人が本を手にとることも考えて高いところまで本を並べるんです。本の読み方でも学力が決まることが一緒に発表されていて、子どもが自主的に読むことも大事な一方で、子どもに読み聞かせてあげることでも大事だからです。子どもが取る場合と大人が取る場合のそれぞれが手に取りやすい設定を心がけています。あとは、さまざまなシチュエーションで読めるようにしたり、読みたくなる場所を作ったりするだけでなく、大人が入りにくいような一人で籠ることが出来る空間なんかもデザインすることがあります。

子どもの肥満と室内空間

2020年に文部科学省が発表している日本の肥満児の傾向では、5歳児の肥満児傾向が過去最高になっています。この理由としてはジャンクフードの食べ過ぎが原因と言われているところから、学校給食の見直しも行われています。そういう意味で、私たちが大事にしているのが食の空間です。

例えば、白いテーブルクロスが黄ばんでいるところで食事をするようになるでしょうか？白いご飯が黄色く見えてしまう可能性がありますね。すなわち、用意された食事が正しく見えないことから、美味しそうに見えない可能性があるとことです。私たちが大事にするのは自然の光で明るい空間をつくること。園舎の建てかえを依頼された時に、建てかえ前と建て替え後の食事の量を調査することがあります。すると、建てかえた後は子どもたちの食事の量が1.5倍くらいに増えることが多いんですね。さらに言うと、天気の良い時は外と繋がりがながら、日本の四季を感じたり風を感じたりしながら食べることも大事だと思います。



都市型の保育園ではすぐ横が道路になっていることがほとんどですが、道路に対しても私たちはできるだけ開放するようにしています。セキュリティを考えると高さのあるガラスのフェンスを作りますが、道行く人が「この園は声をかけてくれる」と言ってくれるので、そういう関係性があるのも食事の空間にとって良いことではないかと思えます。

また、運動不足も肥満の原因の一つだと言われています。体を動かすのも大事なテーマですが、山梨大学の中山先生は特定のスポーツだけ習得しても多様な動きの習得

になつていないということを調査結果として言っています。スポーツクラブで運動することも良いが、それだけをやっても必要な動きの一部しか習得できないということですね。幼少期に子どもが経験すべき動きは36もあって、それらを経験しておくことでケガをしにくくなるというようなことをおっしゃっています。例えば、「こぐ」という動作

にたくさんさんの動きが取り入れられるからです。例えば「つかむ」という動きだけでなく、仕掛けによって「かがむ」「くぐる」「登る」「寝っ転がる」といった動きも出てきます。それに加えて、安全性も比較的担保しやすいことがネット遊具のメリットです。

社内でも実践を

は自転車などでない取り入れられない動きなので、サッカースクールでサッカーを学んでいる子どもたちにとっては「こぐ」という動きは出てきません。ところが、これは日常で子ども同士で遊んでいる場面では、意外に多くの動きが入っているのです。そのため、中村先生は「日常の遊び」を増やした方が良いということをおっしゃっています。そうはいつでも今の子どもたちにはやはり遊びにくいという状況があり、例えば愛媛県でやった事例では園舎内で36の動きを取り入れられるようにしたこともあります。そこまでやらなくても段差一つで子どもたちはたくさんさんの動きができるので、できるだけ段差は取り入れるようにしています。ちなみに、私たちはネット遊具をよく設置します。ネット遊具を使う理由は、非常

このように根拠をつけながら設計していますが、私たちの会社はレストランを持っています。これを作った理由は、社員の福利厚生や健康を維持するだけではありません。先ほどご紹介した園舎の食事空間の話と同じで、食べるという文化を大事にしているため、社内でもそれを実践したいという気持ちがありました。私たちの作る園舎と同じように、食事の空間は開放的で気持ち良く食べられるようにしています。また、4年程前には保育園も自分たちで作りました。一番の理由は、女性社員の出産や育児が増えてきて、継続的な就業がしにくい環境を改善するためです。私たちの理念や設計の雰囲気がかかってもらえるような園を作ろうということ、段差がたくさ



んあつたり、本がたくさん並べられていたりというような空間にしました。実は中国にも会社があつて、そこにも同じように保育園があつて、中国は日本よりも子どもにも対して過保護気味なところがあつたり、こういった段差に対してもかなり抵抗があつたようです。何とか説得しながらやっているところですが、子どもはいつもたくさん経験から学び、強くなつていくということを念頭に置きながら設計をしています。

子どもたちのケガと向き合う

園舎の設計をやっていると、掃除をしやすくしてほしいとか、子どもたちが汚れないようにしてほしいといったオーダーが多いです。さらには、親から文句が来ないようにはしてほしいといったものまであります。それはそれでよく分かりますが、それは本質と違うのではないかと疑問に思います。そういう時に考えるのは、「過保護と安全は違うのではないか」ということです。例えば、保育園に柱があれば、クッションを巻いて安全を確保することが多いと思います。

ところが、私は本当にこんなものに意味があるのかと感ずるので、柱をガードしたところで、保育園であればすぐ近くにはサッシのレールみたいな危険なところが他にもたくさんあります。一部だけ角を丸めたり、ガードをしたところで、ガードしきれないところは山ほどあるんですね。そういうところでケガをした時はどうするのかということも考えないといけません。他にも、階段にノンスリップの加工をすることで滑りにくくなるという効果はもちろんあります。ところが、ある程度滑ること

は転倒しにくくなるということも事実なんです。そのため、滑りにくいことだけが安全ではないということも言えるわけです。

この15年、20年でバリアフリーやユニバーサルデザインが設計でよく求められるようになりまして、便利にすること、簡単にすることは園舎を設計する上でいくらかでもできてしまいます。身体の不自由な方や、高齢の方がこういうものに頼るといことはとても有益だと思えますが、子どもの場合はこれらに頼るのが良いことだとは思えません。仮に園舎にいる時だけ安全だとしても、保育園から外に出た時はガードなんかはありませぬ。そのため、保育園から外へ出た時は危険がたくさんあるということも考える必要があると思います。そういう意味で、私たちは園舎の中でケガをした方が良いのではないかと思ひながら設計をしているのです。

建築から環境問題を考える

SDGsやサステナブルといった言葉を最近よく耳にしますが、設計する上でもエコであることを

求められるのが当たり前になってきました。一般的にはエコな設計と言うと、太陽光発電や省エネ型の機器を思い浮かべる方が多いと思います。しかし、冷静になって考えるとこれが本当にエコなのかと疑問に感じます。これらを作る時には二酸化炭素が排出されるだけでなく、耐用年数も実は15〜20年ぐらいでその度に買い替えないといけません。果たしてこれが本当にエコなのでしょうか。そんなことをしなくても、建築でできることはたくさんあると思います。

茨城県での事例では、園長先生がエアコンを使いたくないという方で日本の古来の手法をヒントに設計しました。縁側空間のようなスペースを確保し、その上に約5メートルくらいの軒の空間を作つて、直射日光が入りにくくしました。それでも、室内には間接的に光が入るように空間を取つていて、日中は電気をほとんど使いません。

そして風通しもすごくいいんですね。夏場もエアコンをほとんど使わないということが実現できた結果、電気代が本当に50%くらい落ちました。他の事例では、建設時にその土地にある木を伐採しないということを一つのテーマに

しました。木は一切切らず、削った土は築山を作ることに使ったため、搬出作業は全くありませんでした。搬出作業をしないと車の移動がなくなるので、二酸化炭素の排出削減に繋がりますね。

また、我々は水の空間をよくデザインします。水だけというよりはプールを兼ねていることが多いのですが、プールにするのは夏場だけで、夏が終われば水を抜くと段差のある遊び場になります。水深が浅くてもこれらが部屋の前にあるだけで、打ち水をしたように冷たい風が部屋に入ります。このような例から、装置に頼らなくてもエコロジーなことができるということが一つ言えるのではないのでしょうか。



トイレも気持ちの良い場所に

トイレは閉鎖的で暗く、汚いというイメージがありませんか。昔は保育室を南側に持っていたって、余ったところにトイレを設置するという作りが多くありました。私たちはトイレも南側にして、明るく清潔な空間にしています。トイレが湿ったままだと、清掃してもバクテリアは清掃前より実は増えてしまうんです。一方で、清掃後に乾燥状態を保つとカビやバクテリアの発生が減り、それが臭気や汚染の減少に繋がります。そうすることで、例えばこれまではタイルが当たり前だった床材に木を使うこともできます。子どもが汚してしまいう可能性があるところは拭き取りやすい素材にします。多くの場所は木で作るようにすることで、トイレのインテリアそのものを大きく変えることができました。

私たちが大事にしているのはできるだけ過保護にならず、子どもから好奇心を奪わないこと。そして、失敗を恐れないこと、挑戦できることです。答えを与えるというのではなく、考えたり、想像したり、行動したりする機会

を私たちは提供したいと思いがら設計しています。



座談会

委員.. 既存の保育園を改修して新たに加えていくことも可能なのではないでしょうか？

日比野.. 補助金が少ない場合や子どもが多くない地域において建物が老朽化した場合には、既存の建物を活かしつつ改修をして環境を整える事例も増えていきます。

委員.. お金の話で申し訳ないのですが、金額についてお伺いさせていただきます。コロナの時期から物価の高騰がありました。コロナ前とどのくらい金額は変わったのでしょうか。また、その原因や今後の見通しについて聞かせていた

だけですか？

日比野.. 我々もコロナ禍の2、3年ぐらいは予算調整に本当に苦労しました。恐らく世の中の設計事務所さんもみんな同じではないかと思えます。そうなった理由は幾つかありますが、急激に建築価格が上昇してしまったというのが一つですね。その背景には、コロナによる資材不足が起きたことがあります。人手不足については、単純に職人さんがもう高齢化してコロナの時に辞めてしまっただけでなく、若い人は職人になりたがらないという現状があるからです。依然として、高齢化した方たちが何とか頑張ってくれてるという状況が、建築の値段を上げる理由ではないのかと思います。他にも、例えば今は大阪万博に向けて建設が進んでいますね。そうするとその期間は周辺の業者がいなくなってしまうように、建築は地域や経済と本当に密に連携していくため、本当に分かりやすいです。

委員.. 読めないんですね。

日比野.. あとは、建築は内装材ひとつとってもグレードによって価格が全然違います。この会議室の壁材と私たちの保育園で使って

いる壁材を比べてみると、おおよそ6倍から7倍も価格が違います。どこの保育園はどのくらいの金額で作ったという話を聞かれると思います。どんな建材を使っているか、どんな工法で作られるかということと比較する必要があります。

他にも、地盤が悪いと杭だけで8000万円くらいかかってしまうところもあるんです。目に見えないところですが、こういった部分も坪単価に大きく影響します。とにかく、流れが読めない上に専門知識がないと比較しにくいということを頭に入れていただけたら良いと思います。

委員..23区内のような狭小の土地や住宅街の中で工夫されていることはありますか？

日比野..我々の保育園もビルの中にあります。できるだけ子どもたちや先生がフレキシブルに使えるように、2〜5歳児までを1つの空間にしています。狭いところほどあまり細かく区切らない方が使いやすかったり、広がりを感じたりするやり方で、結果的に壁の量が少ないので実はローコストです。あとは、建築だけで解決するというよりも、現場での保育と連携していくことになると思います。

委員..設計をする段階で子どもの動きや運動量について計算をされているのでしょうか？

日比野..そういうケースも最近はありません。我々だけでは全てを調査できないので、その場合は大学などと連携しながらやっています。例えばリノベーションする場合、既存の子どもの運動の調査をかけます。その後、問題点を認識した上でどこをカバーするかということを考えながら空間を作っていきます。

委員..私の保育園は5年後に建て替えるか、移転するかが話し合われています。おおよそその手順や良い土地と巡り合う方法を教えてください。

日比野..移転する場合、まずはどれぐらいの土地が必要かを認識しないと探せません。土地には容積率や建ぺい率というものがあるので、必要な床面積から必要な土地の面積を計算するところがスタートです。土地を探す上では近隣問題で頓挫してしまうこともあるため、隣の家が近かったり、お年寄りが多く住んでいたりするところは避けた方が良いでしょう。そこからは、設計事務所がそこに保育園が本当に建てら

れるかを確認して、建てられると分かれば具体的に案を作り、自治体と連携しながら補助金の申請をしていきます。良い土地を探すには地域に密着型の不動産会社を尋ねると良いかもしれません。流通前の土地の情報を持っている可能性があるので、競争相手より先に交渉を始められます。

委員..園舎を建て替える際に仮園舎を建てる場所から探すと思いますが、基準より多少狭くても大丈夫だと聞いたことがあります。実際のところはどのようなのでしょうか？

日比野..原則、基準を守るように言われます。ただ、園庭なんかは緩和される場合もあると思います。仮設の園舎は作るにも高く、代替地もなかなか都内だと見つかりません。それだけで1億円もかかってしまうようなことがあるので、できるだけ仮設を建てない選択肢を模索された方が良いでしょう。

委員..板橋区にも仮園舎が作れずに少しづつ切り崩しながら改修をしている保育園があります。それも1つの手なんですね。

日比野..工期が伸びるとコストは上がってしまいますが、仮設を作

るよりは安く済みます。仮設すると結局はほとんど使い捨てになってしまうのです。

委員..園舎の前に水場を作っているとお話がありましたが、安全管理はどうなっているのでしょうか。また、公的な機関からの指導はありませんか？

日比野..ご紹介してきた事例は、使い方も含めて話し合いながら実現したものだけです。園によっては怖いからという理由で実現できていない所もたくさんあります。行政の指導については、条文には「これはダメ」というような記載は一切ないにも拘らず、監査課には条文にない言葉でよく指摘されます。私たちはそんな条文はないと反論するのですが、そういうところに関しては折衝の余地があるため、園として欲しければ我々の方で交渉しながらやっています。

